

## 知って備える！ 関東大震災から100年

令和5年9月1日は関東大震災発生からちょうど100年にあたります。今後起きるであろう大地震へのひとつの教訓としたいと思います。

関東大震災は1923年(大正12年)9月1日11時58分に発生しました。M7.9の烈震でした。相模湾トラフに沿ったプレート境界で起こる海溝型巨大地震といわれています。

建物全壊約10万9千棟、全焼21万2千棟、被災190万人、死者・行方不明者は推定10万5千人、犠牲者の多くは東京と神奈川の住民でした。

震源断層があった神奈川県では、建物の倒壊、山崩れ、崖崩れ、土石流が発生しました。津波は相模湾と房総の沿岸部で発生し、高さ10mの津波も記録されました。建物焼失が多かった原因は震源域の外であった東京市に台風くずれの低気圧の影響で10メートル毎秒の強風が吹いて、また、発災が正午前で食事準備に火を使っている家庭が多く、広範囲に出火、地表面にも強い突風が吹き、火の勢いは拡大していきました。水道管の破裂もあり、消火も遅れ、火災は3日程続きました。

殺到した数万の避難者を火災旋風が襲った本所被服廠跡は凄惨を極め大阪朝日新聞では「一万五千坪に三万五千の死体」と報じました。



大震災による地割れ

### その時の若林界隈の様子

荏原郡世田谷村の家屋倒壊は全壊17、半壊16。村内の若林界隈は火災は発生せず、倒壊家屋が少々ありました。松陰神社の石燈籠が倒れました。若林青年会の青年らは若林福寿稲荷神社の境内に砂利を引くため砂利運びの最中でした。突然のグラグラという激しい振動で足で立ってられず、急いで近くの木にしがみついて揺れの止むのを待ちました。



若林・松陰神社の石燈籠倒壊

また、小学校は2学期の始業式で、子どもたちは式を終え家に帰った直後でした。当時の荏原尋常小学校(若林小学校の旧名称)では式の時は教室を3つぶち抜いて式場にしていました。支柱を減らしたため、平屋の校舎はすっかり天井が剥がれ潰れてしまい、学校はしばらく休校でした。学校から帰った子どもの中には烏山川の水車小屋前の川で遊んでいた子どももいました。突然ドブドブと1m位の波が沸き起ってうねり始めました。子供たちは必死で互いに手を引き合って陸に這いずり上がると、途中の道の地割れをよけて家々へと急いで戻りました。本震のあとも余震が長く続き、遠くの家々が火災で赤く夜空に映っている光景に皆恐怖しました。

若林界隈の様子は吉村昭著「関東大震災」と世田谷区発行「ふるさと世田谷を語る」～池尻・三宿・太子堂若林・三軒茶屋～の若林の座談会の記録を参考に再現いたしました。

2023年1月29日(日)に地域防災セミナーが開催しました。概略を報告いたします。

## タイトル: 「子育て世代向けアクティブ防災講座」

～必要な備えや災害時にとるべき行動を一緒に考えます～

講師: 特定非営利活動法人 ママプラグ ファシリテーター 児玉 陽子氏

[講演の要点]

子連れ日常生活の中で簡単に取り組めるアイデアや方法を手に入れ、アクションにつなげると楽しみながら災害に強くなっていける、それがアクティブ防災です。

### アクティブ防災の取り組みの考え方

- ① とっさの対応ができる親になろう
- ② 防災グッズを試し備蓄食料を試食しよう
- ③ 避難リュックを作ろう
- ④ 子供にも小さな避難リュックを持たせよう
- ⑤ 家族で、ママ友、ご近所仲間と楽しみながら、防災ピクニックをしてみよう
- ⑥ 家族の災害時ルールを作ろう
- ⑦ SNSのデマ情報に惑わされない

### 防災は オーダーメイドだ! 備蓄は3種類用意したい

十家族十色、我が家の個性、自分が使えるものを備えよう。

- ① 普段持ち歩くもの、職場に置くもの  
スニーカー、LEDライトなど
- ② 非常用持ち出し避難リュック  
持って歩ける重さ、1人1個
- ③ 家庭内備蓄  
・停電断水しても日常に近い生活ができるよう準備と工夫をしておこう  
・在宅避難がお勧め、在宅以外の分散避難も考え避難所への避難は最後の手段と考えよう



参加者の感想の一部を紹介いたします。

- 今すぐにも避難リュックの見直しをしたいと思います。(30代女性)
- 子連れ防災対策に不安がありました。参考になりました。子供に「生きる力を残す」との言葉、大切にします。(40代女性)
- 避難リュックの中に家族の写真を入れること、子供の好きなもの、飲みもの 食べものを入れること、防災グッズは使って試しておくことが大事とのこと、勉強になりました。(40代女性)

安全安心部会は約15年間防災のテーマを中心に毎年のようにセミナーを開催してきました。また、2003年以来防災情報などを「安全安心まちづくり通信」として発信してきました。地区住民の皆様の防災意識の向上を願い、備えの強化をはかり活動してきました。関東大震災が起こった100年前と比べれば建物のつくりも防災の備えも進化しています。しかしながら、将来いつどんな地震が発生するのか、どんな危険が襲ってくるのか予測できず油断できません。地域の防災活動に今以上に興味をもっていただき、いざという時に冷静な行動がとれるよう日頃から十分な準備をぜひお願いいたします。

若林地区身近なまちづくり推進協議会は若林まちづくりセンター管内の住民委員で構成された協議会です。安全安心部会は主に防災・防犯・交通安全など地域の安全安心まちづくりを推進しています。この通信は三軒茶屋・若林地域に掲示・回覧・配布しています。世田谷区のホームページからも見ることができます。

メンバー 小泉一哉 鈴木久 高木史雄 月村雅一 廣瀬稔教 堀江義之 (アイウエオ順)